

ノルウェーの
特集 教育と文化

自由な学校、フォルケホイスコーレ（民衆高等学校）

名古屋大学学生 佐 藤 友利亞

私たち一行は、8月25日から27日までの3日間、ノルウェー北部のモシェーンという町にある民衆高等学校に滞在しました。フォルケホイスコーレと呼ばれるこの学校は現在ノルウェーに77校あり、北欧特有の学校です。この学校の最も大きな特徴は、学生と教師が共同生活をするところにあります。また、試験を行わず資格などの付与がありません。満17歳半以上なら性別・年齢・障害の有無・国籍を問わず誰でも入学

することができます。

私たちが訪れた学校はTOPPENという名のフォルケホイスコーレで、モシェーン駅からタクシーに乗ってそこに到着すると、校長先生が温かく迎えてくださいました。

私たちはTOPPENの説明とフォルケホイスコーレについてのお話を聞き、学校内を見学しました。TOPPENでは、現在93名の学生が学んでいて、ほとんどの学生が

18～19歳だそうです。共同生活といつても、教師はシフト制で交代しながら宿泊しているとのことでした。学生の国際色は豊かで、過去にも現在も様々な国から留学生がやってくるそうです。今年はニカラグア、オランダ、セルビアからの留学生が入学したそうですが、日本人学生はこの学校にはまだ一度も入学していない、ということでした。壮大なフィヨルドに囲まれたその学校からの景色はすばらしいもので、思わず、自分が初めての日本人留学生としてそこで学んでいる姿を想像してしまいました。

TOPPENでは卒業証明書がない代わりに、学生が旅立つ時、大学進学の際に有利となるポイントをもらうことができます。高校を卒業してから大学に入学するまでの間に、半年から1年間自分の好きなことを学び、仲間と共に生活して将来の道を決めていく。日本ではこのような生き方はいわゆる“寄り道”的なものです。ノルウェーでは逆にフォルケホイスコールで学ぶことが大学進学に有利になり将来に繋がっていく、つまり寄り道が近道になるという逆の構造が見えてきます。このような大学とフォルケホイスコールの連携は若者にとって非常に有り難いことだと思います。というのは、日本の学生は高校を卒業したら就職か大学進学という2択のうちどちらかを選ばなければならず、そのために高校2年生までには将来何をやっていくか、という人生の方向性を具体的に決めなければいけないのです。もちろん途中変更は可能ですが、大人が思っている以上に若者は大きなプレッシャーを背負っています。今まではそれが当たり前だと考えていた私も、

ノルウェーを訪れ、フォルケホイスコールという自由な学校の存在を知ることでこんな自由な国があったんだ、と肩の力が抜けてしまいました。そして、この北欧ならではの学校について日本に帰ってからも調べていきたい、と思いました。

帰国してから調べてみると、フォルケホイスコールの発祥の地はデンマークであり、その国の偉大な教育学者グルントヴィによって約150年前に構想されたものだということがわかりました。当時のデンマークは文化的、経済的にドイツ（プロイセン）とイギリスの影響下にありましたが、農民解放運動やフランス革命を経て1848年に絶対王政を破壊させ、立憲君主制へと移行したのです。しかし、王室にとって代わったブルジョアジーたちは、学歴・資格・試験を重視して知識人や官僚を育てる教育を重視し、グルントヴィはこれに反対したのです。人々が自分の考えていることを自由に発言できる社会をつくるためには聖職者や学者のためではなく、市民のための学校が必要なのだ、そしてそれはデンマーク語を語るものが集まり、言葉によってコミュニケーションをとりあう場所であるべきだ、と彼は主張しました。こうしてグルントヴィはフォルケホイスコールを創設し、学校の形式は彼がケンブリッジで見た、教師と学生が寝食を共にし、友人のように親密に語り合うカレッジ形式をモデルにしたそうです。そして、学校の本来の目的は「各人が自己そして他者の生の啓発、人間の生に光を当てることだ」と述べ、試験や資格、単位を取り込む必要性を否定しました。自分の生と向き合うための学校に、外見を評

価する尺度はいらない、ということなのだと思います。

こうして19世紀半ばにデンマークで起こった民衆高等学校は、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの順に伝わっていき、現在ではそれぞれ独自の形態に変化しています。北欧にはたくさんの種類のホイスコーレがあります、例えば夫婦で学び、子どもは付属幼稚園に通うことのできる“家族ホイスコーレ”、“旅するホイスコーレ”、中でも一番気になったのは、“ダイエット・フォルケホイスコーレ”です。これは減量と健康的な勉強と実践を行う学校ですが、日本にあつたら大勢の女性が入学するだろう、と思いました。とにかく自由なので、ほとんどの学校が校則はドラック使用と授業中の飲酒の禁止だけです。自由であることは同時に、責任を持って行動しなければならないことだと思いますが、学生たちは暴れだすこともなく楽しそうに談笑していました。

た。共同生活の良さを感じた一面でした。学校の説明をしてくださった方が、特に強調していたことは、“掃除”でした。みんなで共に生活することは大切で、中でも掃除は教育よりも大事なことだとおっしゃっていたことが印象強かったです。

TOPPENでは野外活動、バンド、音楽制作、演劇、スポーツ（バスケット、サーフィンなど）、バレーボールの6つのコースを選択することができます。音楽制作コースの教室や、レコーディング機材などが置いてある部屋なども見学させていただきましたが、非常に本格的のものばかりで驚きました。まず、TOPPENの学生宿舎を貸していただき、学校内を見学させていただけたことを心から感謝し、今回のノルウェー旅行に参加したことで、北欧発祥のフォルケホイスコーレという自由な学校の存在を知ることができたことを光栄に思います。